

単元名：『鳥獣戯画』を読む

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
1	「鳥獣戯画 17 紙」の解説文を書き、筆者の解説文と比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を読む前に、鳥獣戯画の絵を提示したことで、興味を引くことができた。 ・本文を読む前に、解説文を書いたことで、筆者の解説文と比較することができた。 	
2	本文全体を読み、筆者の主張を見つけ、要旨をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・1段落と9段落を比べて読んだことで、「尾括型」の文章であることに気付いた。 ・「一番大事な文章はどれか」と発問することで、筆者の主張を捉えさせることができた。 	
3	筆者の表現の工夫を見つけ、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「実況中継風の書き出し」「体言止め」「問いかけ」「納得させる仕掛け」「言い切り」の5つの工夫を本文から見つけ出し、その効果を考えることができた。 	
4	筆者の表現の工夫を生かし、「鳥獣戯画 18 紙」の解説文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の5つの表現の工夫を生かしながら「鳥獣戯画 18 紙」の解説文を書くことができた。 	
<p>伸ばせた力、子どもの変化、保護者の反応など</p> <p>第1時で「鳥獣戯画 17 紙」の解説文を書かせた際、大半の児童が「この絵は～」や「ウサギとカエルが～」という説明的な書き出しをしていた。しかし、第4時では、25人中24人が「実況中継風の書き出し」で「鳥獣戯画 18 紙」の解説文を書くことができた。さらに、絵から分かる事実と自分の考えを区別しつつ、筆者の表現の工夫を生かして書くことができていた。</p>			
<p>所感</p> <p>・第1時において、最初に絵を提示して自分の解説文を書かせたことで、本文を読み取ることが苦手な児童も自分の解説文と筆者の解説文とを比較しながら本文を読み進めることができ、有効な手立てであったと考える。</p>			